

密閉構造フランジ付の場合

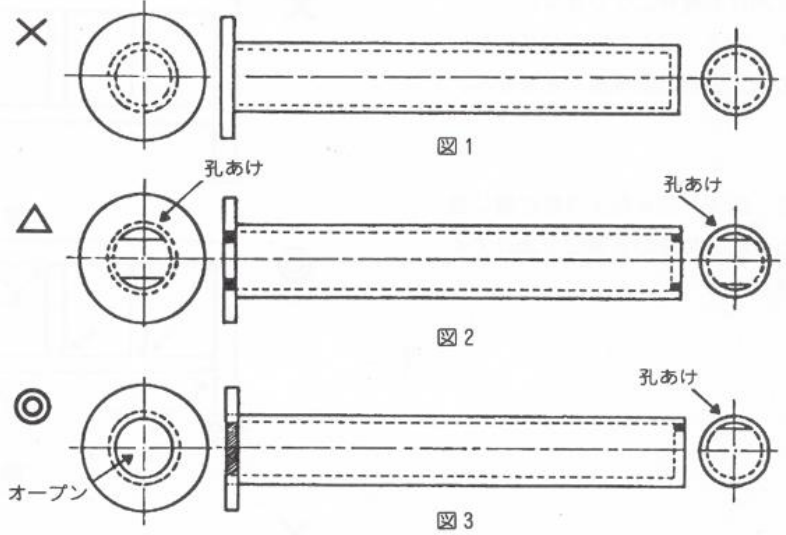
フランジ付の場合でも、前項と同様です。図1、図4のように密閉のままでは、めっきが困難です。

図2、図5のような位置に品物の内径にみあうような、孔またはスカラップが必要です。

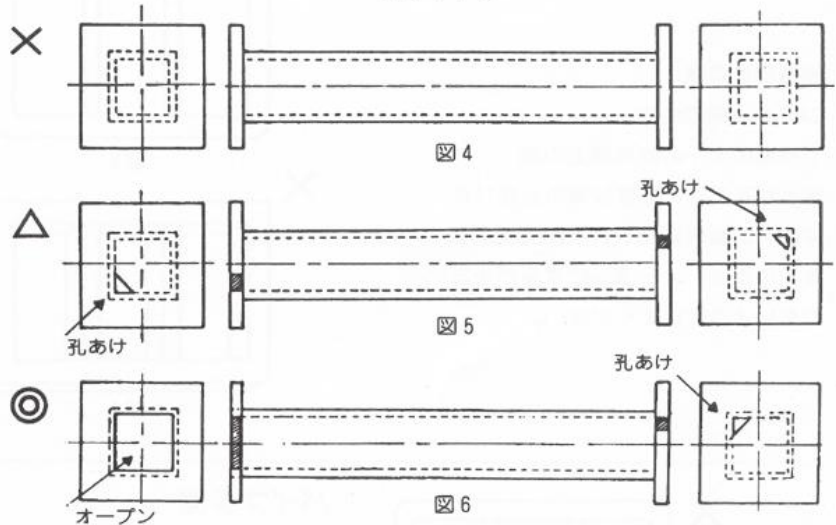
それでも空気だまりができたり、残留垂鉛の流出が不十分になったりしますので、図3、図6のように全面をオープンにするのが最もよい方法です。

これらの図はメクラフランジの場合を示していますが、中心に開口部がある場合も同様です。フランジがカエリになって空気が垂鉛の流通を阻害しますので、図2、図5と同じように加工してください。

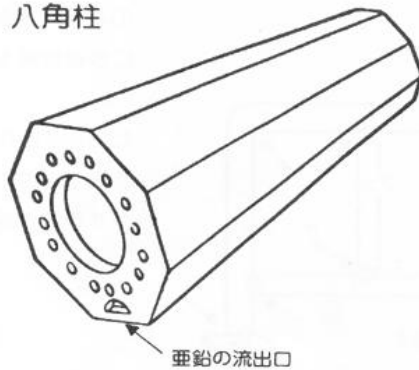
丸パイプ



角パイプ



八角柱



大部分の垂鉛は、開口部から流出しますが、残留垂鉛は、図のような位置に孔あけをした方が、きれいに流出します。